

## 第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

団体名	特定非営利活動法人しろい環境塾
活動タイトル	里地里山を生かしたまちづくりを目指す
活動地域	千葉県白井市平塚周辺



7月3日流しそうめん用の竹の伐出しと搬出

### 【活動の目的・目標】

流しそうめん用の竹樋作り

「里地里山を生かしたまちづくり」の一環で、子どもたちに普段とは異なる環境の中で、自然を利用して、自然に親んでもらおうと、全長30m越えの流しそうめん用の竹樋を作りました。この竹樋で、夏休み期間中に5団体198人が流しソーメンを楽しみました。

この竹樋は、最後は地元の保育園に引き取られました。



7月15日竹樋作り

### 【今回の活動で苦勞した/工夫したこと】

コロナ禍で中断していた流しそうめん用の竹樋作りを4年ぶりに再開しました。

直径20cmを超える孟宗竹を5本つないで竹樋を作ります。

久しぶりの竹樋作りに力が入り、大きすぎる竹に1tトラックでの搬出に苦勞したり、樋の節削りが上手くいかなかったりと3年のブランクを感じながらの作業でしたが、子供たちの喜ぶ顔を見てまた来年もと思いました。



7月22日竹樋を使った最初の流しソーメン

### 【活動の内容・成果】

開催回数：3回（竹樋作り）

参加人数：20人

達成率：100%

しろい環境塾は、専門性や効率化を進める中で里山保全や農業支援、子供の環境教育など5部門に分かれて活動していますが、今回の竹樋作りでは普段各部に分かれて活動している会員の中で、特別な技術や経験を持った者が集まって作業をしました。

まずは、竹を協力農家の竹林から伐り出し、チェーンソーで少し深めに半割りし、節を抜いて角々をグラインダーで削ります。

竹樋は会員の試食会で流れ具合を確認した後、子供会や子育てサークルで利用してもらいました。ソーメンをゆでる時も森の間伐で出た薪を使います。参加者は流しソーメンの長大な樋を見て大人も子供も驚いてくれます。

肝心の流しソーメンは、あっという間にみんなの前を流れ行きました。

この竹樋を多くの人が利用する事で「自然を利用して、自然に親んでもらおう」という目的は達成できたと思います。

### 【団体概要】

ニュータウン周辺の荒廃していく里地里山を、市街地の住民と田園地域の住民が協働で再生と管理を行なうことで、環境に優れたまちづくりを目指しています。

活動は週3回（月水土）9時45分～15時  
毎回30人程度が参加し、里山整備や畑作、稲作、炭焼き、観察会、体験会など幅広い活動を行なっています。

## 第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

こちらに、1ページ目の以外の活動写真を添付し、右側に説明をご記入下さい。



### 村大師の遍路道整備

昔から行なわれている平塚の村大師。毎年5月初旬に地区内のお大師様の祠をめぐりますが、今では森の中の道などは整備する人がおらず一年で荒れ放題です。環境塾では、毎年村大師の前に、倒木の処理や草刈りを行ない、参加者が安全に通行できるよう活動しています。



### 刈払い機安全講習会

千葉県森林組合へ講師を依頼して、毎年実施している刈払い機安全講習会の座学風景です。会員26人が集まり、機械のメンテナンスや安全な取扱い、作業の進め方などを学びました。刈払い機は環境塾が使用する機械では一番使用頻度が高い物なので、事故や故障が無いようしっかり勉強しました。



### 機材整備

環境塾は年間150日ほど活動するので、使用する機械類のメンテナンスは必須です。そのため機械に詳しいメンバーを中心に機材整備部があります。今日はハンマーナイフモア（草刈り機）を修理します。冬季を除く約8カ月間酷使するので、部品の交換など日ごろの管理は怠れません。



### クリのイガ剥き作業

一年間剪定や草刈りをして管理してきた栗林も9月になると栗拾いが始まります。週3回の活動日に、2人の当番が2か所の栗林を回ってイガごと収穫してきます。そして昼休みにみんなで栗のイガ外しをして会員に分配します。